

波斯の聚落及住宅

(圖版第六版付)

金原信泰

波斯は地形上之を三區域に分つことが出来る、第一は北方裏海に近きアルボルツ山脈と西方國境に接して連互せるザグロス山脈との間にある地方、第二はアルボルツ山脈の北方裏海沿岸地方、第三はザグロス山脈の西方メソポタミヤ平野に臨める地方及び南方波斯灣沿岸地方である。而して其第一は波斯國地積の大部分を占めて所謂イラン高原の西半をなして居り、海拔三四千尺乃至五六千尺平均四千尺の高さを持つて居るのであつて、此處では是を中央部と稱する、第二第三は孰れも細長き狭い區域であるに過ぎないけれども、住民の種類及び其生活、文化の状態からいふても、夫々一區域として區別せらるゝ價値があるのであつて、此處では便宜上第二を裏海沿岸地方、第三を西南部地方と稱することにする。

是等の地方に散在する聚落の出來た原因は、孰れも水利交通天然物資の多寡等にあることは、固より言ふに及ばない事であるが、種々毛色の變つた民族が夫々一地方に割據する必要上、不便利を忍び不自然に出來上つたものも少くはない模様である。

波斯では従來一定の戶籍法もなく、統計のことも一向顧みられなかつた爲め、國民の數も甚だ不明であつて少く見積る人は九百萬人位だといひ、多く見積る人は千三百萬人位迄あるが、大體千萬人内外といふ處であらう、そして其大多數は固より波斯人即ち伊蘭人（波斯人自身は國號をイランと稱し人民をイラン人といひ波斯語で「Farsi」といふ）であつて、全體の約五割五分を占め、其他の二割は土耳其韃靼、更に他の二割五分はアラブ人、バルチ人、レック人、クルド人、ルール人等であつて、是等全國民の約四分の一は遊牧生活を營むで居り一所不住である。

第一の中央部高原地は雨量少き爲め大概砂漠地か荒蕪地であつて、低い處は往々鹽か曹達を産する様な住居に不適當な土地である、夫れ故人民の聚落地は主に山間水利良く草木の發育に都合好き場處であつて、住民の住居耕作に利用せられ得る部分は全面積の二割にもあたらぬといふ事である今此高原地に出來て居る人口約一萬以上の都會と其海拔高距を表示すれば次の如きものである（首府テヘランから始め東方より南方へ廻り次で西方に移り終に中央部に至る順序に依る）

(都會名)	(人口概數)	(海拔高距、尺)	(都會名)	(人口概數)	(海拔高距、尺)
テヘラン	二八〇、〇〇〇	三、八六五	セムナン	一四、〇〇〇	四、〇〇〇
ダムガン	一三、〇〇〇	三、九〇〇	サルザワール	一二、〇〇〇	三、一一五
ニシャプール	一〇、〇〇〇	三、九一七	マシヤッド	一三〇、〇〇〇	三、一九七
ビルヂヤンド	一五、〇〇〇	四、六〇〇	タツバス	一〇、〇〇〇	二、三七〇

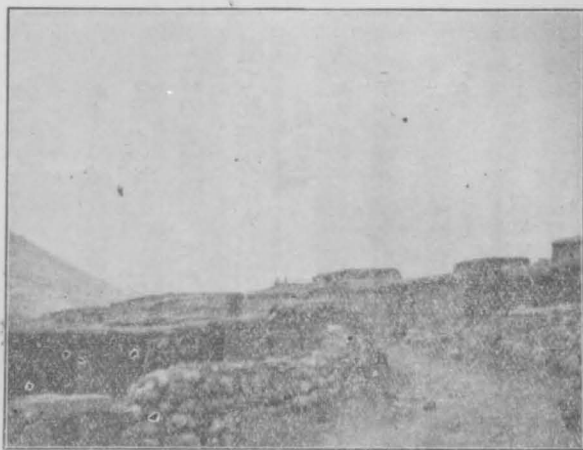
ケルマン	五〇、〇〇〇	五、六八〇	ナスラクバード	一一、〇〇〇	三、七八〇
シラーズ	六〇、〇〇〇	五、二〇〇	ホラマバード	一五、〇〇〇	四、〇八八
ホルシルド	三〇、〇〇〇	五、四二〇	ソルタナバード	三〇、〇〇〇	六、一六〇
ケルマンシヤール	三〇、〇〇〇	四、八六〇	ハマゲン	五〇、〇〇〇	六、二八〇
ザンシヤン	二〇、〇〇〇	五、五四六	カズヴィン	四〇、〇〇〇	四、〇三四
ターム	二〇、〇〇〇	三、二〇〇	カシヤーン	五〇、〇〇〇	三、二六〇
イスバハン	二〇、〇〇〇	五、三〇〇	ヤズト	五〇、〇〇〇	四、〇七五

國の北西隅アゼルバイシヤン地方は均しく高原地であり、山岳重疊して居るけれども荒蕪地少く隨て此地方は人口割合に稠密であつて、都會の數も少くない、其主なるものは

(都會名)	(人口概數)	(海拔高距、尺)	(都會名)	(人口概數)	(海拔高距、尺)
タフリツ	二五〇、〇〇〇	四、六五〇	アハール	三五、〇〇〇	四、四一七
アルグビル	三〇、〇〇〇	四、四八六	ミアネジ	一一、〇〇〇	三、三〇〇
マラゲール	二〇、〇〇〇	五、三二二	ウルミエール	三〇、〇〇〇	四、五六〇
ホイ	三五、〇〇〇	三、六〇〇			

中央部地方は一般に雨量少く、乾燥期が長い爲に家屋の構造は割合に簡單である、即ち普通の民家である、土を捏ね上げて四方の壁を作り、其上に細木を並べ渡して其上に藁の様なものを布き乗せ、更に其上に泥を塗るか、田舎なれば茅の様なものを載せて屋根として居る、夫れ故相當に厚く塗つて置いても、強雨や長雨の時には雨水が下に漏り、甚しきは崩れ落ちて怪我人を出す様な事

もある、窓はあつたりなかつたりで明りは主に入口から取り入れられて居る(第一圖)都會の家は流石に多少共念が入り、壁も半焼か少くとも天日で干した煉瓦で出来て居り家根も鐵板位は使はれて



第一圖 ケルンゼイの土造民家

居る、少し立派なものになると純然たる歐米風であつて(第二圖)殊に大官富豪の住宅では内部の家具も見るに足るものがある餘り大な構への家でなくとも玄關前に泉水を設けることは波斯邸宅の特



第二圖 ヘテラ市サダル・サタルネ

徴であつて、何處の家へ往つても殆んど之を見ない事はない、その上若し事情が許せば、玄關に至る途の兩側なり真中なりに、清流を通ずる幅一二尺の水路を設ける習慣がある。

第二の裏海沿岸地方は中央部と違ひ、雨量豊富な爲に土地も肥えて居り、樹木繁茂して到る處に水流が見られ、中央部からアルポルツ山脈を越えて此地方へ來ると、まるで別世界へ來た様な感がある、殊に吾々の目に付くものは其水田であつて、波斯唯一の米産地である家の構造も雨を防ぐ爲に軒を長くし（圖版第六ノ上）郊外農家の勾配急なる藁葺屋根は我田舎の農家其儘である。（第三圖及び圖版第六ノ下）



第三圖 シラトウ町郊外農家

此地方にてはコーカサス地方から來た種々の人種が交つて居り、大分複雑して居る様であるが、其主なる都會は

ラシユト(約五〇、〇〇〇人)

ラヒヂヤン(約一〇、〇〇〇人)

バルフルシユ(約三〇、〇〇〇人)

サリ(約一〇、〇〇〇人)

アモル(約一〇、〇〇〇人)

アスタラバード(約二〇、〇〇〇人)

である。

然るにラシユト、ラヒヂヤン等の町は裏海水面上二三十尺に過ぎないから、畢竟世界一般の海水面下にあることになつて居る。

第三の西南部地方の内波斯灣沿岸地方は主にアラブ人の居住地であり、メンボタミア平原に接する山岳地方は、北は剽悍なるクルド人の割據地であり、南は獷猛なるパフチアリ、人又はルール人の巢窟である。

波斯灣沿岸地方の主なる都會は、開港地であるバンダラバス（人口約一〇、〇〇〇）ブシール（人口約三〇、〇〇〇）及び所謂波斯石油の産地に近きモハマラ港（人口約一〇、〇〇〇）であつて、カールン河上流のシユスター（人口約一五、〇〇〇）及びテズフル（人口約二五、〇〇〇）はカールン河の御蔭で出來て居る都會である。

クルド人の棲むで居る地方は殊に土地瘠せ、僅に雜草が生える位に過ぎない爲に、住民は大概遊牧を業とし、水草を追ふて天幕生活を營むで居る、其多數の一族耶黨を引率して押し廻はして居る有様は哀れにも亦奇觀である。

先史聚落地理

小 牧 實 繁

地理學の本體は人文地理學である、と一派の學者は云ふ。然しながら斯く考ふる時從來自然地理